

《平成 29 年度 埼玉県公立 学力検査問題》

次の表は、北海道、青森県、長野県、静岡県の人口(2014年)、人口密度(2014年)、産業別人口割合(2012年)、農業産出額(2013年)、漁業生産量(2013年)、工業出荷額(2013年)を示したものです。青森県にあたるものを、表中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

埼玉県で頻出する問題パターンです。一見すると項目も多く、難しそうに見えますが、各都道府県の特徴を表すためのものですから、あくまでヒントとして活用していきましょう。また、「青森県」だけを選ぶよりも、四つの都道府県すべてを記号とあてはめた方が、正答率も上がりますし、それほど時間もかかりません。では実際に資料を見ていきましょう。

道県名	人口 (千人)	人口密度 (人/km ²)	産業別人口割合(%)			農業産出額 (億円)	漁業生産量 (t)	工業出荷額 (億円)
			第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業			
ア	5400	68.9	6.0	18.3	75.7	10705	1292552	64564
イ	3705	476.3	4.7	32.9	62.4	2138	203186	157766
ウ	2109	155.5	9.7	30.0	60.3	2347	1825	51542
エ	1321	137.0	13.2	20.9	65.9	2835	172082	15283

(データでみる県勢 2016 年度から作成)

ア～エの可能性のある都道府県は、それぞれ「北海道」、「青森県」、「長野県」、「静岡県」です。それをふまえて資料を見ていきましょう。

アのデータで目立つのは、「人口密度が低い」、「農業産出額・漁業生産量のどちらも高い」ところです。人口密度が低いということは、人口が少ないか、面積が広いかが考えられます。アの人口を見ると約 540 万人もいます(単位はわかりやすいように(千人)から(万人)に自分で修正すると良いでしょう)。ということは面積がとて大きいことがわかります。候補は「長野県」か「北海道」となります。しかし、「漁業生産量」が高いので内陸県である長野県は除外できるので、結論は「北海道」となります。

イのデータの特徴は何でしょうか? 「人口密度の高さ」と、「工業出荷額の多さ」ですね。青森県・長野県・静岡県のうち、工業地帯・工業地域があるのはどこでしょうか? そうですね、「東海工業地域」がある「静岡県」ですね。人口は約 370 万人、漁業生産量が高いのは、水揚げ量・額ともに日本一の焼津港などがある静岡県の特徴だと覚えてきましょう。

ウのデータを見ると、「漁業生産量が圧倒的に少ない」ことがわかります。これは「内陸県」の特徴ですね。やはり漁業生産は海に面した都道府県の方が多くなります。そう考えればウは「長野県」と推測できるでしょう。

エは消去法から「青森県」だとわかります。つまり、直接青森県を探すより、他の都道府県を表にあてはめた方が正解を導きやすい場合もあるのです。せっかくなので、青森県の特徴として「第一次産業の割合が高い」ことや「工業出荷額が低い」こと、人口が約 130 万人しかいないことも覚えておきましょう。

《平成 31 年度 埼玉県公立 学力検査問題》

次の表は、沖縄県、鹿児島県、大分県、鳥取県の人口(2016年)、産業別人口割合(2015年)、農業産出額(2015年)、工業出荷額(2014年)を示したものです。鹿児島県にあたるものを、表中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

では次の問題です。「沖縄県」、「鹿児島県」、「大分県」、「鳥取県」の四つの県が候補となります。資料を見る前に各県のイメージを思い出しておきましょう。

沖縄県の特徴として何が浮かびますか？観光業がさかんなことや、その反面工業生産が低いこと。サトウキビやパインアップルの生産が有名なこと。などがあげられます。

鹿児島県の特徴は、「畜産業が盛ん」なことですね。シラス台地は稲作に不向きなためサツマイモやたばこのような乾燥に強い植物や、豚や鶏などの畜産が農業の中心となっています。

大分県は教科書での取り扱いも少なく、イメージがつかみづらいのではないのでしょうか？温泉が多いため、「地熱発電」が盛んなことや、カボスの生産量が日本一などもあります。

鳥取県といえば「過疎化」が深刻な問題となっており、人口が最も少ない県です。鳥取砂丘の自然を生かした農業も有名ですね。それでは資料を見ていきましょう。

県名	人口 (千人)	産業別人口割合(%)			農業産出額 (億円)	おもな産出物			工業出荷額 (億円)
		第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業		米	野菜	畜産	
ア	570	9.1	22.0	69.0	697	121	201	265	6846
イ	1160	7.0	23.4	69.6	1287	216	366	454	45692
ウ	1637	9.5	19.4	71.1	4435	191	557	2837	19342
エ	1439	4.9	15.1	80.0	935	5	122	426	6397

(注) 四捨五入をしているため、産業別人口割合の合計が100%にならない場合がある。

(データでみる県勢 2018 年度から作成)

アの特徴はどこでしょうか？「人口が極端に少ない」ところですね。先にあげたように人口が最も少ない県は「鳥取県」です。鳥取県が約 57 万人で 47 位。隣の島根県は約 68 万人で 46 位です。中国地方の日本海沿岸、山陰地方と呼ばれるエリアは人口の減少と過疎化に悩んでいます。

イは「工業出荷額が高い」のが特徴です。しかし残りの「沖縄県・鹿児島県・大分県」には工業地帯・地域が存在しません。この三県の中で工業が盛んなのはどこでしょうか？

ここで、二つの方法が取れます。一つは消去法です。他の選択肢をあてはめてから、イに戻る方法です。もう一つは、上記の三県で工業が盛んなところを推理する方法です。今回はこちらで考えてみましょう。

皆さん「太平洋ベルト」は知っていますね。日本の工業地帯・地域が集まる瀬戸内～太平洋沿岸部のことです。このライン上にある都府県ならば、教科書に載ってなくてもある程度工業が盛んであると考えられます。九州には「北九州工業地域(地帯)」があります。福岡県を中心としています。一部は「大分県」にも広がっています。大分市近辺には石油化学コンビナートもあります。よってイは「大分県」だ

と考えられます。

ウにうつると「農業産出額」の多さ、特に「畜産の多さ」に注目できます。先に述べたように、畜産で有名な「鹿児島県」だとわかります。

エも見ておきましょう。二つの特徴が見つけれましたか？一つは「第三次産業の割合が高い」こと、もう一つは「米の産出量が極端に低い」ことです。これは沖縄県の特徴です。観光業が盛んで、工業化が進んでいないということは、サービス業を含む第三次産業の比重が大きくなります。また、水田に向く農地が少ないため、稲作農家が極端に少ないのも沖縄県の特徴です。気候的には亜熱帯の沖縄は、高温多雨を好む米の栽培に適している（同緯度の東南アジアでは二期作や三期作も行われています）のですが、サンゴ礁の離島や、酸性の強い沖縄本島の土壌は稲作よりも果物や畑作に適しており、近年では稲作農家はますます減ってきています。

《平成 29 年度 埼玉県公立 学力検査問題【改題】》

次の表は、神奈川県、埼玉県、長野県、静岡県の人口、人口密度、産業別人口割合、農業産出額、漁業生産量、工業出荷額を示したものです。埼玉県にあたるものを、表中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

それでは次に、埼玉県を含む問題を見てみましょう。他の都道府県の対比のためにも埼玉県の基本データは覚えていきましょう。埼玉県の人口は約 720 万人。人口では 47 都道府県中 5 位となります。面積は 3797 km²。47 都道府県中 39 位です。京浜工業地帯と、北関東工業地域の両方の境目に位置し、工業団地が広がる一方、大消費地である東京を含む首都圏に位置するので、鮮度が必要な野菜の「近郊農業」も盛んです。内陸県なので漁業生産量は低めだと推測できます。

神奈川県は人口 2 位。しかも埼玉県よりも小さいので、より人口密度は高いです。京浜工業地帯の中心地なので、工業生産も高そうです。農業に関しては埼玉県と同様近郊農業が盛んですが、漁業もおこなわれています。

長野県は中央高地の気候で、果物の生産が盛ん。冷涼な気候を活かして、出荷時期を遅らせることで他の産地よりも高い価格で販売できる「抑制栽培」でも有名です。

静岡県は、みかんのような果樹栽培や、お茶のような園芸作物の栽培も盛ん。また漁業も盛んなうえ、輸送機械や楽器の生産が盛んな「東海工業地域」もある、さまざまな特色を持つ県ですね。

道県名	人口 (千人)	人口密度 (人/km ²)	産業別人口割合 (%)			農業産出額 (億円)	漁業生産量 (t)	工業出荷額 (億円)
			第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業			
ア	9140	3785.1	0.9	22.4	76.7	808	44971	178044
イ	3705	476.3	4.7	32.9	62.4	2138	203186	157766
ウ	2109	155.5	9.7	30.0	60.3	2347	1825	51542
エ	7290	1919.4	1.7	24.9	73.4	1957	4	125104

(データでみる県勢 2018 年度から作成)

まずは「人口」で、「エ」が埼玉県だとわかります。問題は埼玉県を選べば終わりですが、今回は、埼玉県と比較してすべての県をあてはめていきましょう。

アは埼玉県よりも人口が多く、人口密度も上なのが特徴です。「工業出荷額」も高いので、「神奈川県」だとわかります。

イは農業産出額も工業出荷額も高く、なにより「漁業生産量」がとびぬけています。今回の四県の中で考えると、すべてにおいてバランスの取れている「静岡県」だと考えられます。H29 の解説にも述べたように水揚げの多い焼津港があることを覚えておくと良いでしょう。

ウは四つの中で工業出荷額が一番少ないことや、人口密度が低いことから「長野県」だとわかります。内陸県ですが河川や湖などで行う内水面漁業が盛ん（佐久市の鯉の養殖や、千曲川のアユ漁など）なので、埼玉県と比べると漁業生産量は多めです。

《平成 31 年度 埼玉県公立 学力検査問題【改題】》

次の表は、茨城県、鹿児島県、東京都、鳥取県の人口、産業別人口割合、農業産出額、工業出荷額を示したものです。鹿児島県にあたるものを、表中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

では最後の問題を考えてみましょう。茨城県・鹿児島県・東京都・鳥取県と、特色のある都県が並んでいますね。

茨城県は北関東では人口も多く、鹿島には石油化学コンビナートが存在します。またメロンやピーマンなど日本一の生産量をほこる農業の盛んな県でもあります。

東京都は日本の首都で、人口も最も多く約 1300 万人もいます。京浜工業地帯の中心で、新聞社・テレビ局も多く、出版社も多いので印刷業が盛んです。また人口が密集する消費地でもあるため、近隣の各県が行う近郊農業で生産された農産物は多くが東京に運ばれてきます。

県名	人口 (千人)	産業別人口割合(%)			農業産出額 (億円)	おもな産出物			工業出荷額 (億円)
		第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業		米	野菜	畜産	
ア	570	9.1	22.0	69.0	697	121	201	265	6846
イ	13623	0.4	17.5	82.1	306	1	184	21	83550
ウ	1637	9.5	19.4	71.1	4435	191	557	2837	19342
エ	2900	5.9	29.8	64.4	4549	694	1890	1290	114481

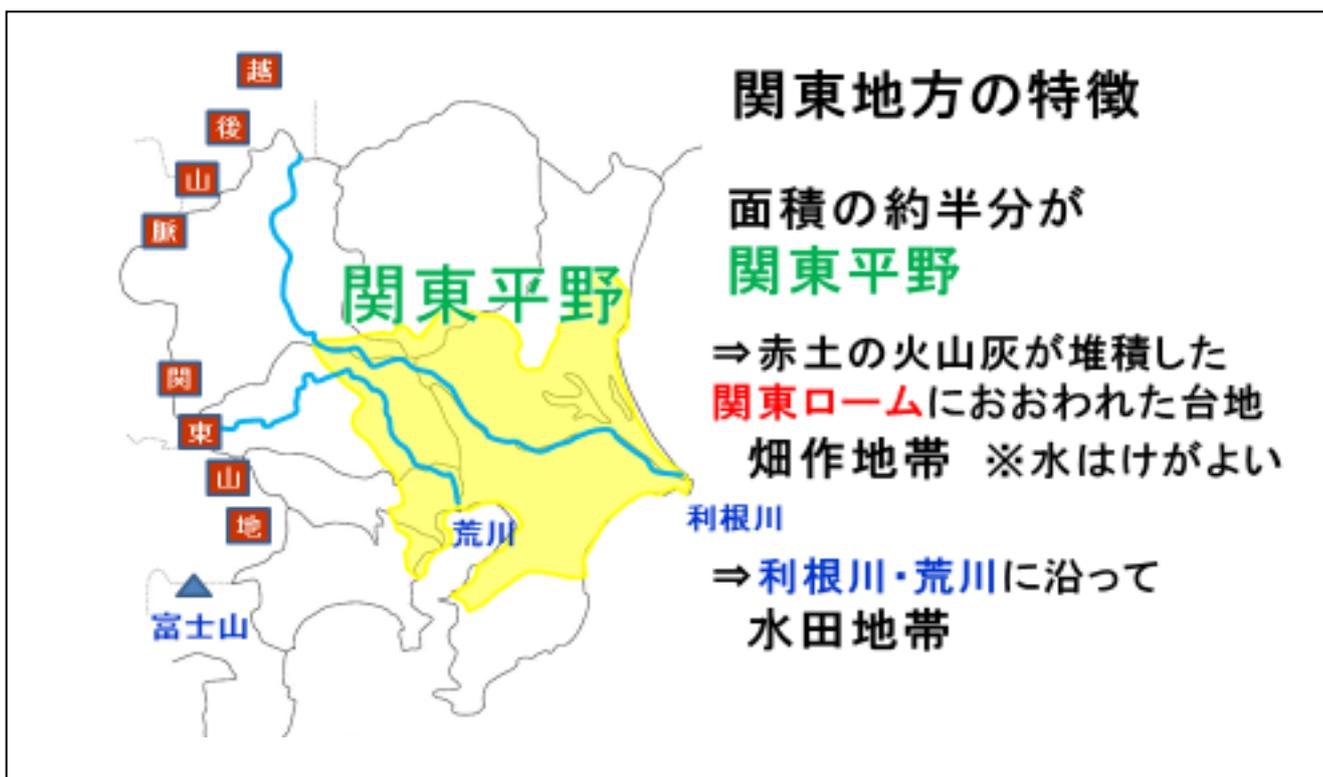
(注) 四捨五入をしているため、産業別人口割合の合計が 100%にならない場合がある。
(データでみる県勢 2018 年度から作成)

アから見ていきますと、人口が最も少なく、工業生産額も低いので、四都県の中では「鳥取県」だとわかります。TV 本編でも説明したように、農業生産量と農業産出額には差があります。産出額 1 位の北海道や 3 位の鹿児島県などは米の生産よりも「畜産」や「酪農」などの産出額が高くなる農業の比重が大きく、日本の穀倉地帯と呼ばれる東北地方や北陸の新潟県は米の生産量は大きいものの、産出額では上位に挙がってこないことになります。

イは人口が最も多いことや、第 1 次産業の割合が極端に低いことなどから、大消費地である「東京都」だとわかります。米の産出量も極端に低いのは、先に述べたように農家としては単位面積当たりの収益の高い、畜産や野菜・果物の生産が多くなるからです。

ウとエの識別は難しいですね。しかし農業の「畜産物」の高いウが「鹿児島県」と考えられます。先述したように太平洋ベルトからずれている鹿児島県は工業出荷額も低くなります。

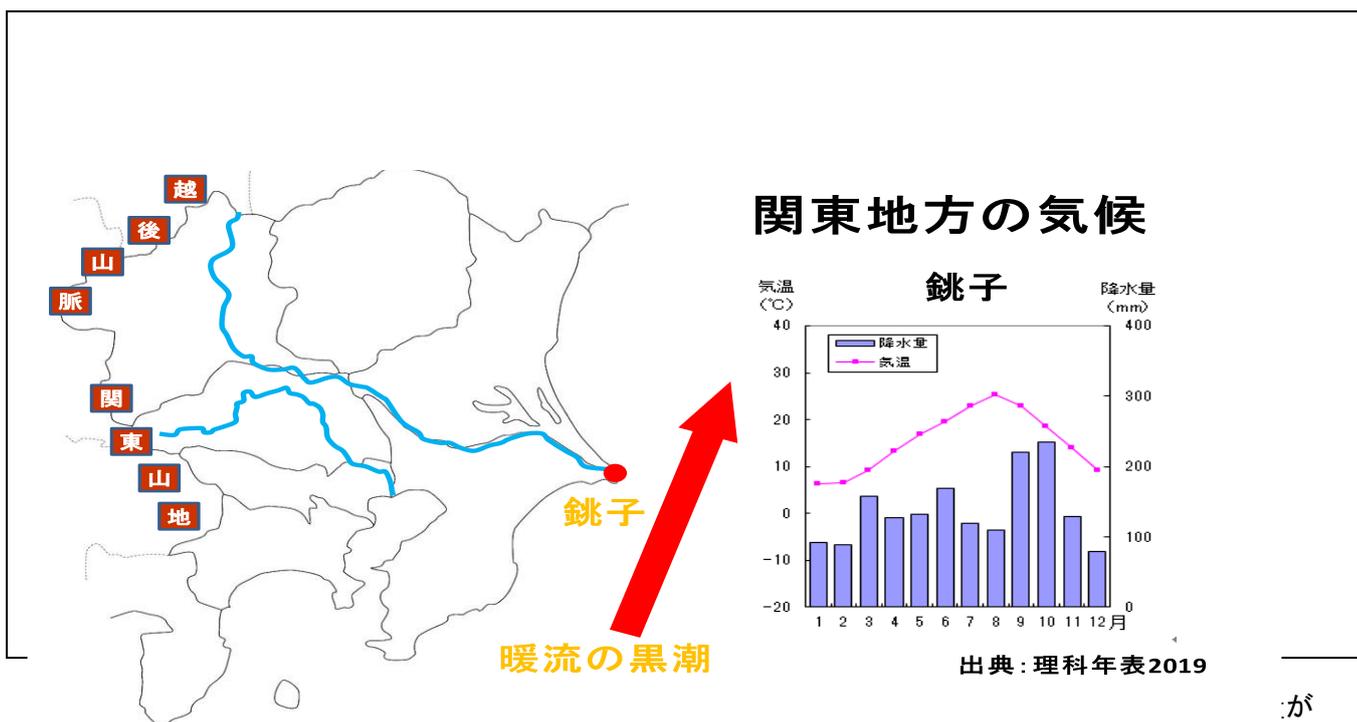
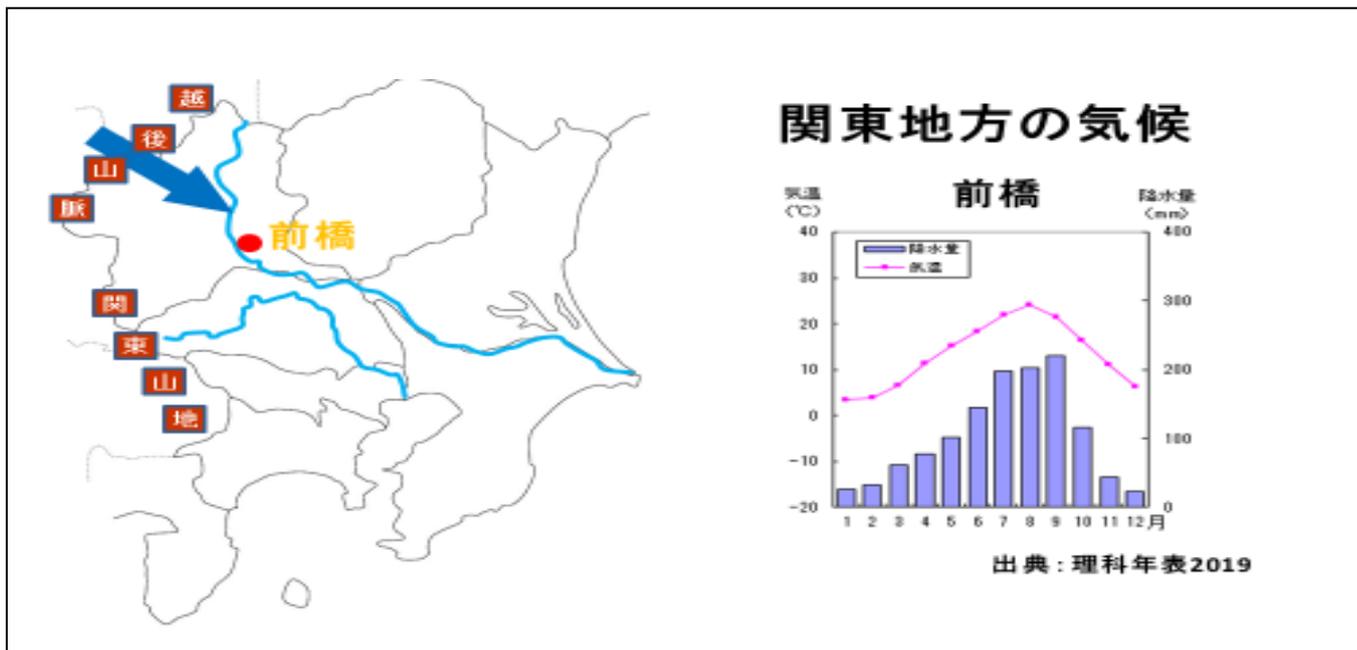
よってエが「茨城県」となります。実は茨城県は関東一の農業県で、農業産出額では鹿児島県より上位の 2 位となります (2016 年調べ)。また、北関東自動車道開通により「北関東工業地域」の中心となりつつあります。内陸県に分布する北関東工業地域ですが、茨城県とつながることで首都圏の消費だけでなく、海外の需要も見込めるようになってきています。



関東地方の特徴ですが、まずは関東平野という日本最大の平野があるため、現在は日本の約 3 割の人口が集中する大都市圏です。しかし昔から人口が多く、豊かだったわけではなく、徳川家康が配置換えで関東に入府する以前は「広いが使いようのない土地」が広がっていました。

その原因は主に二つありました。一つは「関東ローム」と呼ばれる火山灰質の赤土です。水はけがよく、鋳物造りに適していますが、近代以前の日本の農業の中心だった稲作には向かない土壌でした。もう一つは「利根川」と「荒川」という二大河川です。どちらの川も水量が多く、関東ロームのような保水力の弱い地面はすぐに洪水が起こり、低地は湿地帯となり、人々は台地の上に集落をつくらざるをえませんでした。

江戸時代になると、利根川と荒川の流路を変える大規模な治水工事が行われ、水量が減少し、江戸中期以降、米以外の換金作物が盛んになると、新田開発と合わせて関東平野の開拓が急激に拡大しました。大陸から導入された綿花栽培や、水はけのよい台地の上でも行える桑畑（蚕の栽培）、ききん対策として広まったサツマイモ栽培などにより、政治の中心地だった江戸周辺には人口が集中するようになっていったのです。



少ない」ことです。記述問題で聞かれることも多いので確認しておきましょう。

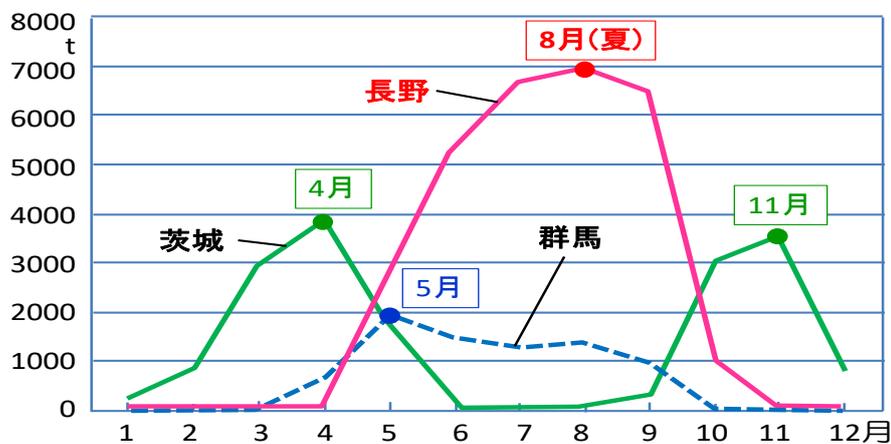
ではなぜ夏に降水量が多いのでしょうか？これは気候帯の影響です。東アジアの温帯に位置する日本列島は、夏に太平洋から「南東の季節風」が、冬には日本海から「北西の季節風」が吹いてきます。どちらも海上で湿気を大量に含むため、日本列島に雨や雪を降らせてます。高い山地や山脈に雲がぶつかったタイミングで降水がおり、乾燥した風だけが山地や山脈を越えていきます。

関東地方は越後山脈や関東山地が冬の季節風を遮るため、冬は乾燥した風「からっ風」が北西から吹いてきます。からっ風による砂ぼこりを避けるため、家の北西側にだけ防風林を設けた住居が作られました（埼玉県で出題されたこともあります）。

反対に夏は遮るものがない関東平野に夏の季節風が吹きこむので、夏の降水量が高くなります。

が

【抑制栽培】 レタスの月別入荷量(東京卸売市場)



出典：東京中央卸売市場年報

長野は日本のレタス生産の約3割を占めています。他の産地に負けない理由は何にあるのでしょうか？それが長野県の冷涼な気候を活かした「抑制栽培」なのです。

みかんやお茶など、めまぐるしく出荷ランキングが入れ替わる農作物がありますね。これは出荷時期が固定されていて各都道府県で激しい競争が行われているからです。愛媛県などはみかんの生産競争から路線変更し、競争の少ない果物栽培（キウイなど）に作付けを移行している農家も多くなっています。

これに対してレタスの様な野菜は気温や日照時間で成長時期を大幅にずらせるため、冷涼な長野県は他の生産地より「出荷時期を遅らせる」ことができるのです。こうすることにより他の産地と競争することなく、安定した価格で生産を続けることができます。

抑制栽培と「促成栽培」はほぼ同じような記述で対応できます。「他の産地と出荷時期を（早める／遅らせる）ことで、競争を避けて生産物の価値を高めることができる」と解答できるようにしましょう。

中京工業地帯 (約50兆円)



京浜工業地帯 (約38兆円)



阪神工業地帯 (約30兆円)



出典：工業統計調査H24

日本の三大工業地帯の帯グラフですね。品目ごとの割合と総生産額で識別できるようにしましょう。

まず、中京工業地帯。総生産額がわかれば約「50兆円」と他の工業地帯・地域よりも高いことが特徴となります。総生産額がわからないときでも、「機械」の割合が非常に高いことから、自動車生産の中心である中京工業地帯であると識別できるでしょう。

次の京浜工業地帯は実は難しいです。資料や区分方法によって総生産額が変化します。これは隣接する北関東工業地域や京葉工業地域との線引きが変化することなどによります。それでも「金属」の割合が少なく、中京に比べると「化学」の割合が多いなどの特徴がみられます。帯グラフだけでなく文章もあるならば「『印刷』業が盛ん」というのがキーワードとなります。

阪神工業地帯は、キーワードとしては「中小工場が多い」ことがあげられます。帯グラフでは「金属」と「化学」の割合がほぼ同じというのが識別方法になります。

内陸型(組立型の工場)の工業地域

北関東工業地域

(埼玉県・群馬県・栃木県・茨城県)

せんい0.7%



出典:工業統計調査H24



では北関東工業地域の特徴はどうでしょうか。京浜工業地域と隣接しているため、生産額では識別は難しいです。「工業団地」が発展しているため「機械」(家電や自動車)の組み立て工場が多いのが特徴となります。

また、化学や金属と同じくらい「食料品」の割合も大きいですね。これは首都圏という大消費地があるため、食品加工の工場、特に保存がきかない乳製品や精肉・冷凍食品などが多いためだと考えられます。北関東には大規模な工場・工業団地を設置できる土地がまだまだたくさんあります。そうした工場と首都圏をつなげる交通網さえ開通されれば、北関東工業地域は今後のますますの発展もありえます。